

# JAERA NEWS LETTER vol.200

一般社団法人日本自動車リサイクル機構

ニュースレター 2025年12月号



## 連載企画

### 自動車リサイクル業界を 担うホープ(20)

名前:吉澤 将也(よしざわ まさや)(30歳)

所属:有限会社カーリサイクルホソノ  
(栃木県小山市)

担当:4号工場 工場長

特技:バレーボール

MBTI:主人公型(魅力的で人望が厚く、自分と矛盾する意見にも耳を傾けられる。また、周囲の人を信じて行動するため、多くの人から信頼される。)

— 仕事で誰にも負けない部分

こなせる仕事の幅広さ

— この業界の魅力を一言で

様々なクルマを扱うことができるで、  
クルマへの知見が広がること

— 将来の業界への期待

資源の再生やリサイクル技術の発展  
と向上

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。



## INDEX

【連載企画】自動車リサイクル業界を担うホープ/巻頭言 ——— P.1

【ニュースレター 200号記念】ニュースレターの軌跡を振り返る ——— P.2

JAERA 会員工場の火災の件 ——— P.3

JAERA 活動報告・自動車リサイクル会議 2025 ——— P.4

10月新車販売・使用済自動車発生台数/中古車輸出に係る返還台数 ——— P.5

鉄スクラップ最新情報 ——— P.6

行事予定・お知らせ / 編集後記 ——— P.7

## 巻頭言

広報部会

永田 則男

ここ最近、クマ被害に関する報道が途切れる日はありません。私の住む山形でも「クマはどこにでも出没する」という空気が広がっています。

かつては栗拾いや茸取りで山に入る際「クマに気をつけや」と言われた程度でしたが、いまでは街中に出没するので常に気をつけていなければなりません。近所でも親子グマ3頭が柿の木に登り、駆除されたとの報道があり、身近な出来事に緊張感が走りました。私自身も万が一を考え、夜のウォーキングを控えています。

背景には地球温暖化や人口の減少といった環境変化が関わっており、気温の上昇により冬眠が短くなり、山の中だけでは食料確保ができなくなったからといわれています。

いずれにせよ、騒動が落ち着くまでは用心し、安全第一に過すしかなさそうです。

02

## 祝・JAERAニュースレター 200号記念！ 創刊からの歩みを振り返って

### JAERAニュースレター記念すべき第200号

このたび、JAERAニュースレターは記念すべき第200号を迎えることができました。これは、読者の皆様のご支援とご愛読のおかげです。心より感謝申し上げます。

ニュースレターは、業界の最新情報をお届けする場としてスタートし、創刊当初は法改正や制度の周知を中心に、限られた情報をお届けすることから始まりました。しかし、時代の変化とともに内容も進化し、より充実した情報発信を目指してきました。

近年では、新技術やそれに伴う適正処理の情報、資源循環や現場の課題解決に役立つ情報など、幅広いテーマを取り上げています。

200号という節目を、新たなスタートラインとして、次の100号、そしてその先へ——。これからも皆様とともに、業界の未来を切り拓いてまいります。

### JAERA ニュースレターの軌跡

【創刊号 2005 年 10 月発行】

【第1号 2010 年 6 月発行】

【第100号 2017 年 6 月発行】



2005 年 10 月
前身となる機関紙を発行開始（創刊号）
2010 年頃
新「JAERA ニュースレター」構想を検討
2010 年 6 月
第1号を発行
2017 年 6 月
第100号を配信
2025 年 12 月
第200号を配信

### 古くからニュースレターの発行にご尽力いただいた今城様よりお祝いの言葉

JAERAニュースレターが200号を迎えられたとの報に接し、感慨ひとしおです。思い返せば、2005年の自り法施行に伴う社会の変化に対応するため、業界内ではさまざまな議論が繰り広げられ、その結論の一つとして広報委員会が設置されました。酒井代表、伊丹さんを中心に若手メンバーが集まり広報委員会が立ち上がり、ちょうどその頃、酒井代表の個人的な相談役としてJAERAに出入りしていた私が、広報委員会の事務局をお手伝いすることとなりました。

そこで始めたのが、月一回発行の、文字通り“手作り”ニュースレターでした。私が離れた後も引き継がれ、このたび200号を迎えるに至りましたことは、私にとって手塩にかけて育てた幼子が立派に成長した姿を目にするようで、大変うれしく思います。

これからも、解体業界の先頭に立つ気構えで広報委員会が活躍され、旗印としてのニュースレターがさらに号を重ねていけることをお祈りしております。

### ニュースレター未来への展望 ～ 200号記念メッセージ～

自動車リサイクル業界は、業界構造の著しい変化による様々な課題に直面し、技術や制度の変化が加速しています。こうした変遷の中で、JAERAニュースレターは解体業界の皆様へ寄り添いながら、現場に役立つ情報を届ける存在であり続けたいと考えています。

今後は、次世代技術や業界の動向をいち早くお伝えするだけでなく、現場の声を反映した実践的な情報や、業界全体の課題解決に向けたヒントを積極的に発信していきます。

200号という節目を、新たな挑戦のスタートラインとして、皆様とともに持続可能な社会の実現に向けて歩み続けます。

次は第300号（2034年4月配信）でお会いしましょう!!

広報部会一同



過去のニュースレターも[こちら](#)からご覧いただけます。



## 03

## 【注意喚起】防災対策は万全ですか？ 隣接工場からのもらい火で倉庫2棟が全焼！

### 「自社に非がなくても、甚大な損害は起こり得る」

JAERA会員企業で、隣接する無人工場（別会社）からの出火により、自社倉庫が全焼する重大な火災が発生し、自社に過失がないにもかかわらず甚大な損害を招いた結果となってしまいました。幸い、従業員や周辺住民に負傷者などは発生しませんでした。自社の部品倉庫2棟が焼失し、保管していた大量の部品や建物が失われ、多額の損害が発生したようです。

火元となった隣接工場は、既に倒産しており無人の状態でしたが、内部には古い灯油や樹脂製品などの可燃物が残置されていたようで、これが火災の規模を拡大させる要因となりました。

今回、被災された会員企業様から情報提供をいただき、会員の皆様への注意喚起として以下の3点をお話いただきました。



【全焼した倉庫 骨組みだけがかるうじて残る】

### 1 消防への情報提供は“即答”できる体制を！

→消火活動時、消防から「どこに何があるか」を詳細に聞かれました。

（例：廃油、可燃物、バッテリーの置き場所など）

→一刻を争う状況での確かな情報を伝えるため、**資材・危険物の配置を社員全員が把握できる仕組み**を整えましょう。

### 2 消防水利の有無を確認！

→今回、現場周辺に消火栓や防火水槽がなく、結果、遠方から水を引くことになりました。

→そのため、放水開始まで時間がかかり、水量も多くなかったことから消火活動が難航したそうです。

→今一度、**周辺にある消防水利の位置を確認**し、万が一近くにない場合は、必ず自治体や近隣の消防署にご相談ください。

### 3 隣接する建物の危険物もチェック！

→倒産した隣接工場には古い灯油や樹脂製品などの可燃物が残置されており、火災規模が拡大しました。

→日頃より、**自社周囲の建物等にも目を向け**、危険物の有無を確認しましょう。



【部品もすべて焼失】



【在庫スペースも見るも無残な状況】



【倉庫の棚や柱なども熱で変形】



【火元となった隣接する別会社の工場】

今回の火災は「自社に非がない」状況でも甚大な損害を招きました。

「備えあれば憂いなし」—今すぐチェックを！

## 04

## ▶ JAERA 活動報告 &amp; 自動車リサイクル会議 2025

## TP・JAERA 共催 トラック解体作業見学会の開催

## — 架装物処理と環境対応、業界連携を強化 —

2025年11月7日（金）、有限会社金沢商会（埼玉県三郷市）でJTP・JAERA共催によるトラック解体作業見学会が行われました。本イベントには、環境省、自動車メーカー、車体メーカー、自動車解体業者など総勢28名が参加し、パッカー車の解体工程を間近で視察しながら、架装物の適正処理やGHG排出削減に向けた課題が共有されました。

近年、ごく僅かではありますが、パッカー車にもバッテリーを搭載した電動タイプが登場しており、バッテリー処理に関する情報共有も重要なテーマとなっています。さらに、タンクローリー等の廃車時には排出者側でタンク内洗浄を徹底する必要があるようですが洗浄されていない事例もあることから、周知強化の重要性が確認されました。見学後には意見交換会が開かれ、循環型社会の実現に向けた取り組みを一層進める有意義な場となりました。



【解体されたパッカー車を囲んで意見交換】

## 業界結束で未来を拓く—自動車リサイクル推進会議—

11月19日（水）、第2回自動車リサイクル推進会議がJAERA事務所で開催されました。JAERA、日本自動車リサイクル部品協議会、日本トラックリファインパーツ協会、東日本自動車解体処理協同組合の4団体が出席。10月の合同審議会でJAERAが業界代表として示した、引取台数の減少や仕入れ価格の高騰といった課題や輸出前検査強化の要望を共有し、電動車バッテリー処理の安全対策、検定制度の許可要件化、人材育成強化など制度改革に向けた意見交換を行いました。

今回の会議の中心テーマは「業界が一枚岩となるための組織の在り方」。業界窓口一本化による行政対応の効率化、業界意見の発信力強化、共同取り組みの合理化など、一丸となることによる具体的メリットを踏まえ、前回から更に議論を深めました。最後に4団体間で、持続可能な業界体制の構築に向けて協力して取り組む方針を確認し閉会となりました。



【4団体で議論を深める】

## JARC 主催 自動車リサイクル会議 2025 開催 — 循環型社会への挑戦 —

11月4日（火）、公益財団法人自動車リサイクル促進センター（JARC）主催の「自動車リサイクル会議 2025」が東京都港区で開催され、オンラインを含め656名が参加しました。今年のテーマは「循環型社会実現への道～プラスチック・ガラスリサイクルの現状と課題～」。講演やディスカッションを通じ、再生材利用促進に向けた業界の課題と展望が幅広く語られました。

現場からの実践報告も注目を集めました。西日本オートリサイクル株式会社（福岡県北九州市）の倉光紀一郎氏は、ASR（自動車シュレッダーダスト）を発生させない「全部再資源化」の取り組みを紹介。長年の経験と現場での工夫をもとに、精緻で効率的な解体を追求し、鉄や非鉄金属だけでなくプラスチックやガラスを高品質で回収する事例を解説しました。こうした技術やノウハウは、資源循環の高度化に向けた重要な一歩といえます。

会議全体では、再生材の安定供給や品質確保に向けた業界連携の必要性、地域循環モデルの可能性など、幅広い視点から議論が展開。参加者からは「現場と政策の橋渡しとなる有意義な場だった」との声も寄せられました。



【会議の様子】



【倉光氏】



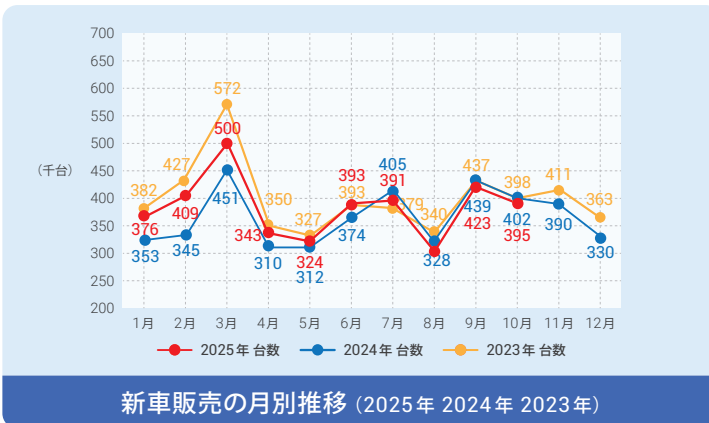
## 05

## 10月新車販売・使用済自動車発生台数・中古車輸出に係る返還台数

### 2025年10月の台数動向

— 新車販売、使用済車ともに前年割れ、一方で輸出返還は前年を上回る

■2025年10月度 新車販売台数 395,189台（前年同月比98.2%）

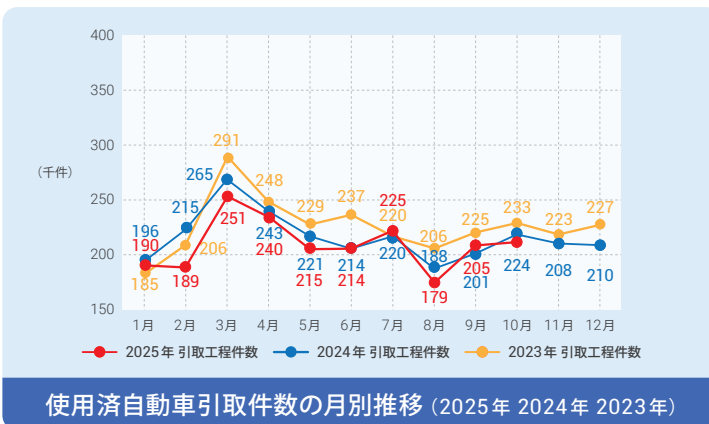


過去の新車販売台数推移		
年累計	台数(台)	前年比(%)
2025年(10月まで)	3,860,597	104.3
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

### ■使用済自動車引取（電子マニフェスト）実施状況

2025年10月度 引取工程 220,917件（前年同月比98.8%）



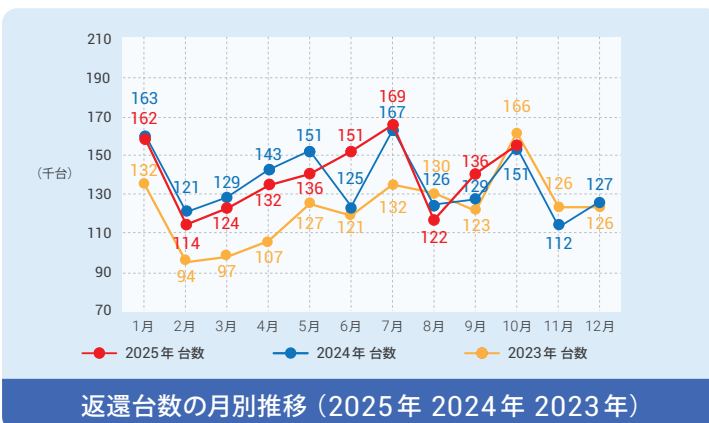
過去の使用済自動車引取台数推移		
年累計	件数(件)	前年比(%)
2025年(10月まで)	2,127,715	97.2
2024年	2,607,112	95.5
2023年	2,731,329	98.6
2022年	2,769,122	87.5
2021年	3,165,022	100.8

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

### ■中古車輸出に係る返還台数※

2025年10月度 158千台（前年同月比104.6%）

※中古車の輸出に伴い、預託していたリサイクル料金を返還した台数



過去の中古車輸出に係る返還台数推移		
年累計	台数(千台)	前年比(%)
2025年(10月まで)	1,407	100.1
2024年	1,644	111.0
2023年	1,481	115.7
2022年	1,281	95.5
2021年	1,342	107.2

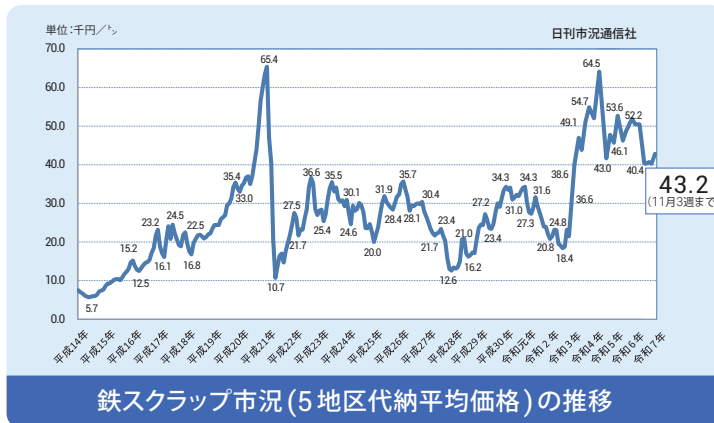
※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

## 06

## 鉄スクラップ最新情報

[ 提供：日刊市況通信社 ]

## 11月第4週（18日）の鉄スクラップ動向



11月18日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	42,500 ～ 44,500	様子見
	南関東	42,500 ～ 44,500	様子見
	浜値	42,000 ～ 44,500	様子見
名古屋		43,000 ～ 44,000	堅調
関西	大阪	43,000 ～ 44,500	強含み
	姫路	43,500 ～ 45,500	強含み

## 国内鉄スクラップ市況が500円どころ続伸 需給タイト・輸出値上伸で

国内鉄スクラップ市況が11月12日、500円どころ続伸する展開となった。東京製鉄が12日から全拠点の購入価格を500円値上げしたことに、他の需要家筋も対応し、値上げ改定が広がった。12日時点で様子見の筋の間にも、後日にかけて値上げ対応が広がった。

市中スクラップの発生が依然として低調で、国内全域で鉄スクラップ需給は引き締まった状態が続いている。また、11月11日の関東鉄源テンダーが、H2を前回比644円高の44,960円と、国内相場を上回る高値で落札した。これには、円安の進行が背景にあり、他の輸出商談にも影響が出る可能性がある。続く13日の中部鉄源協議会の入札では、新断が前回比700円高の47,600円と、上値は重いものの過去最高値での落札となった。

これらの強材料を背景に、輸出を牽制しつつ必要量を確保するため、需要家各社は購入価格を引き上げて引き合いを強める展開となった。市中問屋の手持ち在庫は少なく、出荷量は伸び悩んでおり、国内鉄スクラップ市況はなお堅調な推移を続ける見通しだ。ただ、国内相場はすでに年初来高値を更新しており、今回の上昇も値上げ幅は500円どころで、小幅な変動にとどまっている。

## 関東 一部電炉とシッパーが修正下げ

堅調感が続いてきた関東鉄スクラップ市況は、次第に上値が重くなっている。鉄スクラップの発生や荷動きは依然不安定で、メーカーやシッパーによって入荷や需給状態にバラつきがあるものの、電炉とシッパーの一部で修正値下げが出ている。特に赤字幅が拡大する輸出シッパーは集荷価格の値下げに踏み切りたい意向が強い。関東地区のH2炉前実勢価格は42,500 ～ 44,000円中心、高値44,500円見当。H2浜値は42,000 ～ 44,500円中心。

## 東海 各品種とも続伸後も堅調感残す

東海市場の鉄スクラップ市況は堅調様子見の推移だ。11月12～13日にかけて主要電炉の間に鉄スクラップ購入価格の値上げ改定が広がり域内相場も続伸した。さらに14～15日にかけて、新断の購入価格を値上げする動きが広がり、追加値上げの筋も見られ、新断相場も続伸する展開となった。11月第4週に入ってから、各品種とも堅調感を残した相場展開となっている。H2炉前実勢価格は43,000 ～ 44,000円中心。

## 大阪 入荷バラつき残り市況は強保合い商状

大阪地区の鉄スクラップ市況は強保合い商状にある。11月22日の週末から3連休を控える中、電炉入荷にバラつきが生じているため、需要は一定レベル維持したまま下旬へ向かう公算が大となりつつある。11月11日実施の関東テンダーの高値落札に対して、新規輸出商談に大きな変化が見られないため、先月の電炉入荷に影響を及ぼした湾岸の値上げも品種によって限定されている。H2炉前実勢価格は、43,000 ～ 44,500円中心。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、11月18日午後時点のもの）

07

## 自動車リサイクル士 2025 年度新規講習会 修了試験結果発表

### 合格おめでとうございます！

2025年度に修正、自動車リサイクル士新規講習会の修了試験の結果が発表されました。結果は受講番号での発表となりますので、ご確認ください。

#### 【受講番号をお忘れの方へ】

受講時にメールでご案内した受講番号をご確認ください。

もしご不明の場合は、JAERA 事務局までお問い合わせください。

#### 【認定証の発送】

合格された皆様には、2026年1月上旬以降、認定証および認定証カードを順次発送いたします。到着まで今しばらくお待ちください。



合格発表は[こちら](#)から (JAERA HP)

## 編集後記



国は「従業員の賃金を上げなさい」と言っていますが、「はいわかりました」と即答できる私達のような零細企業の経営者はどれほどいるのでしょうか。賃金は本来、貢献度に応じて支払われるもので、誰でも一律に上げる訳にはいきません。

日々、逃げ場のない危機感を感じながら仕事をしている経営者にとって、従業員の成長は必要不可欠で一番の頼りです。しかし、目の前の仕事をこなすだけで「十分頑張っている」と錯覚する従業員がいるという話もよく聞きます。また、研修等に参加しても、日々の業務に追われて、学んだことを忘れてしまう人もいます。中には「やるが増えそうで面倒」と感じる人もいるかもしれません。本来は行動が変わることで、業務成績が上がり、評価され、賃金も上げられるのです。

私たち経営者が何を望み、何を考えているか素早く「気づくことができる」従業員を育てることが大切だと思いますが、同時に経営者側も「従業員への気づき」の心を忘れずに持ち続けなくてはなりません。

広報部会長 田村 幸男

## 12 月の主な行事予定

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

- 1日(月) | 自動車リサイクル士新規講習会 合格発表
- 2日(火) | 東北ブロック会議 (対面)
- 11日(木) | J-FAR異常電池適正処理・解体実態調査 中間報告会 (対面・WEB)
- 15日(月)～26日(金) | 第22回業界景況調査 開始
- 23日(火) | 第63回合同審議会 (対面・WEB)
- 25日(木) | 第9回広報部会 (WEB)

※事務局は12/27～1/5までお休みとなります。

